

湯山 トミ子教授の御退職に寄せて

法学部長 遠藤 誠治

湯山トミ子先生は、一九九六年四月に成蹊大学法学部に助教として着任されて以来、本年三月に教授職を退任されるまで二〇年間の長きにわたって成蹊大学法学部における教育と研究に貢献されました。湯山先生御退職時の学部長として、お別れの言葉を述べさせていただきます。

湯山先生は、十文字高校を経て、成蹊大学法学部政治学科を卒業されました。その後、演劇活動などをされた後、東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻の修士課程および博士課程を経て、愛媛大学教養部に職を得られました。この間に、北京師範大学への留学で児童文学を学ばれたほか、いくつかの中国語教育機関での研修を経て中国語通訳としての活動もしておられたとのことでした。

湯山先生の学問的業績は、中国現代文学、中国社会文化のほか、中国語教育の分野にわたっています。

中国現代文学の分野に関しては、東京都立大学大学院修士課程在学中に提出された修士論文以来、一貫して魯迅を対象とした研究を進めてこられました。また、魯迅を通じた中国社会文化に関する検討を多角的に展開してこられました。長年にわたる魯迅研究の成果は、『現在に生きる魯迅像——ジェンダー・権力・民衆の時代に向けて』（東方書店）を本年三月末にまとめられています。さらに、中国社会に関する研究として魯迅研究と並行して進めてこられたのが中国における子供観や家族観をめぐる諸問題に関する検討です。

他方、中国語教育に関しては、文部科学省現代GP取組事業「進化する教養教育と国際化新人材の育成…基礎力活用によるコミュニケーション能力育成展開プラン」の担当者として、eラーニングの仕組みを整えることに尽力されたほか、その経験を元にeラーニングのシステム構築やシステム構築後の教育実践について、各地で研究報告をされたほか、多くの論文を執筆してこられました。

成蹊大学では、湯山先生御自身が中国語と中国文化に関する教育を担当されたほか、長い間、中国語教育の中心としての役割を担当されました。また、アジア太平洋研究センターの研究プロジェクトの責任者として助成を受け、数多くの研究を展開し、その成果を出版してこられましたし、成蹊大学出版助成を得て研究業績を発表されました。

私自身は、湯山先生が御自身の茶器を用いて、中国における茶の楽しみ方を熱心に法学部教員に教えて下さったことを思い出します。また、せっかく得られた在外研究の機会に、SARS（重症急性呼吸器症候群）が流行したために、中国での研究期間を短縮せざるをえなくなりました。大変な御苦労であったであろうと推察しております。

このたび、湯山先生は定年により成蹊大学を御退職されます。成蹊大学では関係者の御尽力により、御退職後も、

成蹊大学で用いておられた「遊」のサーバを湯山先生御自身で活用できるように手配させていただきました。
湯山先生の今後の研究の御進展と御健康をお祈り申し上げます。